

「とちぎの生きもの調査わくわくフォーラム」を開催しました。

栃木県及び栃木県農地・水・環境保全向上対策推進協議会は、1月25日（日）に、栃木県教育会館において、「とちぎの生きもの調査わくわくフォーラム」を開催しました。

本フォーラムは、農地・水・環境保全向上対策を活用してすべての地域が取り組んでいる「田んぼまわりの生きもの調査」の成果について紹介し、多くの県民の皆様にとちぎの農村のすばらしさを感じていただくとともに、豊かな農業・農村を未来に引き継いでいくことを目的として開催したもので、活動組織をはじめ一般県民、行政関係者など約650名の方が参加しました。

第1部は、本年度はじめて実施した生きものマップコンテストの表彰式などを行い、審査委員長である宇都宮大学農学部の水谷正一教授から「子どもから高齢者まで参加した調査の結果について創意工夫を凝らしてまとめた力作ばかり」との講評をいただきました。

第2部は、語り部の平野啓子氏が「語りは心の絵画 ～語り伝えたい農村の大切さ～」と題して、農村の魅力や大切さを踏まえながら人と人とのコミュニケーションを通じた地域づくりの重要性について講演されました。また、農林水産省農村振興局の齋藤政満整備部長からは「いのちを育む農村 ～地域の宝を次世代へ～」と題して、生きものとの共存の意義や農地・水・環境保全向上対策の先進的な取組事例について紹介がありました。

第3部では、生きものマップコンテストで入賞した4組織が調査の概要、取り組んだ感想や思い出などを発表しました。発表には多くの子ども達も参加し、「調査を通じて身近に多くの生きものがいることが分かり驚いた」「これからも力を合わせて地域の環境を守っていききたい」といった報告に会場を埋めた参加者は熱心に聞き入っていました。

農業従事者の減少や高齢化、混住化等により、農業の多面的機能や集落機能の低下が懸念される中、今後とも農村環境の保全向上に向けた取組について多くの県民の理解と共感、さらには積極的な参画を得ながら、美しく元気なとちぎづくりをめざしていきます。



